

別記様式第 1 号 (第 8 条関係)

令和 8 年 3 月 3 1 日

朝日町議会議長
阿 部 為 吉 殿

氏 名 白 田 忠 一

令和 7 年度政務活動費に係る収支報告について

朝日町議会政務活動費の交付に関する条例第 8 条第 1 項 (第 2 項) に基づき、別紙のとおり、令和 7 年度政務活動費収支報告書を提出します。

令和7年度政務活動費収支報告書

氏 名 白田 忠一

1 収 入
政務活動費 120,000 円

2 支 出

(単位: 円)

項 目	支 出 額	備 考
調査研究費	126,216	先進地視察等 調査研究費
研修費	37,230	地方議員 研修会
合 計	163,446	

注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。



AB No. 654011

お客様コード 060047 2026 年 2 月 2 日
DATE

領 収 証 RECEIPT

RECEIVED FROM

白田 忠一

様

領 収 金 額
THE SUM OF

¥ 126,216-

但し
FOR2025年12月29日発行、AB No. 653972再発行
2026年1月30日発行、AB No. 654005再発行

保険料、旅費として

上記金額正に領収致しました
The above sum has been duly received.

発行者印

※クレジットカードによる領収(お支払い)の場合、印紙税法上の金銭又は有価証券の
受取に該当しないため、収入印紙の貼付は不要となっています。

FORM OF PAYMENT

現金 C A S H	✓
小 切 手 C H E C K	
銀行振込 BANK REMITTANCE	
ギフト券 GIFT TICKET	
クレジットカード CREDIT CARD	

東武トップツアーズ株式会社
山形支店山形市香澄町2-2-31カーニブレイス山形7F
☎ 050-9001-8583

領収証

No. _____

白田 忠一

令和7年12月25日

金額

¥25,000

内

消費税等

現金

但 令和8年1月23日セミナー受講料として
上記正に領収いたしました

収入印紙

〒112-0011

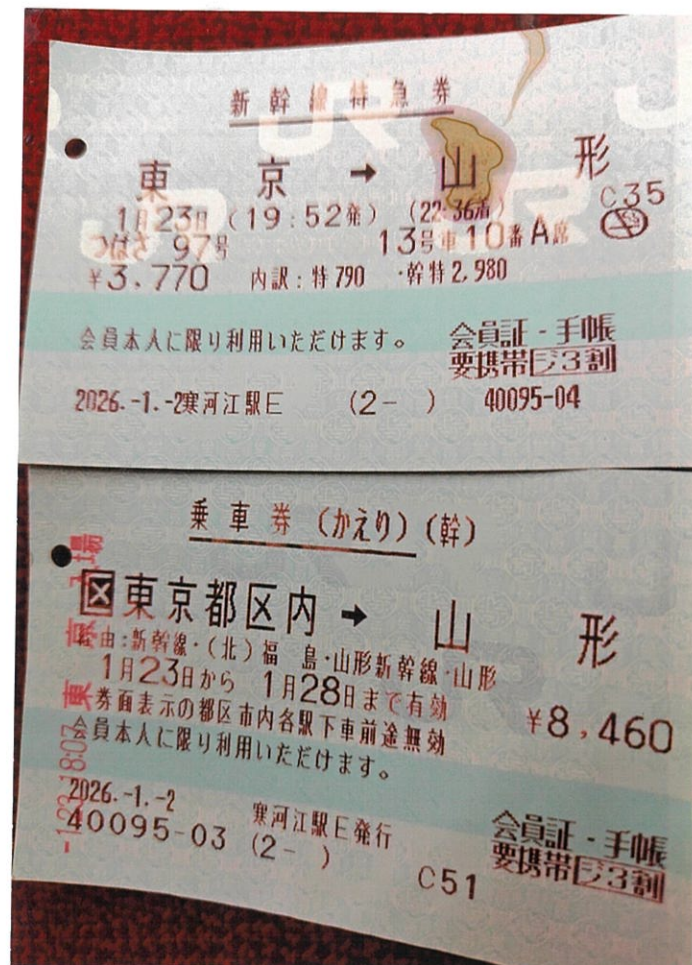
東京都文京区千石2-34-6

株式会社 廣瀬行政研究所

登録番号 T2011001095530



係



政務活動。

令和8年1月20～1月22日

場所 奈良県明日香村
人口 5008人(高齢者率42.0%)
世帯 2190戸★2025 7月1日時点

視察研修目的

当町と同じ人口規模で人口減少であっても地域づくりに頑張っているところ。

を研修目的と選びました。

明日香村の地域作りの取り組み「明日香法」によって良好に保存された貴重な文化財と、その周辺の景観を守っている。→芦川村全体を「飛鳥京歴史ゾーン」「古墳ゾーン」「自然ゾーン」の3つのエリアがある、屋根の無い「飛鳥まるごと博物館」として、地域づくりを実施。

観光を軸として、農業や商業などを活性化させる観光振興策を展開している。

☆観光と農業の連携

棚田を守る取り組み、「日本の棚田百選」認定

「奥飛鳥の文化的景観」設定

田植から収穫まで体験できるオーナー制度、天日乾燥し高付加価値化した米や米粉の加工品を開発販売している、

所感

明日香村は天皇という弥号や日本という国号が初めて用いられ、日本国の始まりの地であることで、景観、観光、農業に取り組んでいることで、当町も景観作りやPR、などの支援に力を入れて、応援活動を行うべきと思ってきました。

令和8年1月21日

和歌山県高野町の概要

人口 2605人
面積 137.03k m³

高野山は、816年(弘仁7年)弘法大師空海が真言密教の根本道場として、開創して以来1200年の歴史を誇る日本仏教の「聖地」として国内外にPRを行い、誘客に努めている

取り組みとしては

2004年世界遺産登録して年々観光客を増やしている。内容としては、高野山の生命線、お寺に泊まる方が年々、宿泊客に対する外国人観光客の割合が増加2024年は、半数以上(約53%)を外国人が占めている。

インバウンド拡大の取り組みとしては、寺院を中心とした高野山らしい景観整備として

1988年より順次電線、電柱を地下かすることにより、開放感のある美しい空を取り戻したり、州トイレの整備として、毎日2回365日トイレ清掃を実施し、きれいなトイレを維持する等様々な取り組みを行ない、インバウンド拡大の取り組みで外国人観光客を増やしている。

所感

当町もコテージ等、観光地としてPRして交流人口の拡大につなげて移住、定住につながる取り組みが必要であると感じてきました。

地方議会セミナー2026.01.23

令和8年1月23日

場所 東京都池袋(株、廣瀬行政研究所)
株式会社エンバブリックコミュニティ共創コーディネーター
二宮雄岳講師

題は地域コミュニティの作り方について

東京一極集中を是正し人口減少や地方の衰退に対処するために地域活性化の取り組みについて学んできました。
「今、住んでいるこの町が好きだから守りたい」という人を増やすためについてですが
地元の人も、新しい人も共通していることは急に知らない人と一緒に物事を進めるのは難しいので人と人は間に
「共有できるもの」があってコミュニケーションが始まることでした。
話したり、共同作業する中でつながりが生まれることでした。例えば、
祭りは準備期間中に、様々な行事、会合、調整が続き、地域の人が出会い、話し合いや共同作業等で地域で大切に
してきましたことを理解して、共同作業の中でお互いの人柄、個性も理解して一緒に苦勞を乗り越えることで
地域コミュニケーションが生まれ、地域は自分達で守ることで地方創生につながると感じてきました。

所感

生まれ育ったこの町を好きになるには大変なことです。自分の力だけでは地域に暮らし続けることは困難になる
ことで支え合い、助け合いが必要であります。住民自らが、生活支援の担い手となり、地域づくりに参加する
ことで、支え合いによる生活の基盤が確保していく取り組みが必要と感じてきました。